中央区 津波避難計画
長嶺地区コミュニティ協議会

この『地域版津波自主避難マップ』は、
コミュニティ協議会が協議して作成したものです。
平成28年3月作成

歴史と文化の薫りただよう、
うるおいとにぎわいのまち
中央区

新潟地震の時は…

・信濃川から近い区域で床下浸水、床上浸水の被害があり、3週間くらい浸水が続いた

地域の社会特性

・高齢者が多い
・住宅密集地
・栗ノ木バイパスは以前、栗ノ木川であったために液状化するおそれがあり、交通量も多い道路であるため、発災時に使用できない可能性がある
・古信濃川跡地も液状化のおそれがある
・JR信越本線・白新線が東西に延びており、コミュニティ協議会区域から南方向への移動は困難

地域の被害特性

・液状化被害、津波の河川遡上の影響が想定される。浸水すると、長期間、水がはけないおそれがある地域
・浸水が早い所は発災から30分未満で津波が到達するおそれがある
・信濃川方向からだけではなく、萬代橋方向からも浸水が広がる

区域全体の避難の考え方

・南北に細長い地域であり、北側が信濃川に接していて沿岸・沿川地域になっているので、基本は川から迅速に離れ、南方向へ避難する
・長嶺地区コミュニティ協議会区域及び周辺に位置する津波避難ビルへ避難する

各ブロックごとの具体的な避難方法

ブロック	特徴	期待される避難行動	避難目標
A	・早い所では発災から30分未満(沿岸・沿川地域)、他の部分も30～120分(河川遡上地域)で津波が到達するおそれがある ・市指定津波避難ビルがない ・避難に適した直線の道路がブロック内を南北に走っている	・津波が浸水してくる川沿いから迅速に離れる ・栗ノ木バイパスは液状化や、交通量も多く渡れないおそれがあることから、バイパスを横断する必要のない東地区総合庁舎の方向へ避難する	避難目標：東地区総合庁舎
B	・南北に通り抜けられる避難経路に適した道路が少ない ・明石通は交通量が多く、液状化のおそれもあるため、明石通を渡っての避難は困難が予想される	・東地区総合庁舎や万代長嶺小学校へ避難する	避難目標：東地区総合庁舎、万代長嶺小学校
C	・南北に通り抜けられる避難経路に適した道路が少ない ・高い建物が比較的多い	・津波避難ビルである中央図書館（ほんぽーと）、明石住宅、アトール長嶺町へ避難する ・明石住宅、アトール長嶺町は収容可能人数が少ないため、災害時要援護者や高齢者の避難を優先する	避難目標：中央図書館（ほんぽーと）、明石住宅、アトール長嶺町

地震が起こったら高台やより遠くへ直ちに避難！

津波がくる海や川からはなれて近くの高台などへ直ちに避難

浸水区域の外への避難が間に合わないようなら、近くの津波避難ビルへ避難

津波避難ビルまで行く時間がなかったら、すぐ近くの堅牢な建物などに緊急退避

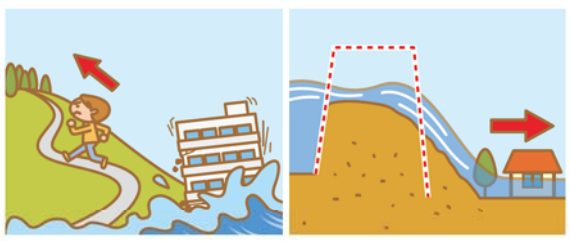
津波による4つの地域特徴

沿岸・沿川（えんせん）地域　地図面色

緊急避難地域

津波警報を待たずに、直ちに高台や避難ビルへ避難！

沿岸・沿川は、津波襲来までに時間的余裕がありません。津波の情報を待たずに、すぐに高台や避難ビルに避難しましょう。



河川遡上（そじょう）地域　地図面色

早期避難地域

河川沿いから直ちに離れて！高台や避難ビルに避難！

河川遡上地域では、早期避難が必要です。できるだけ川から「遠く、高く」へ避難してください。

低平地浸水（たんすい）地域　地図面色

長期湛水地域

高台や避難ビルなど堅牢な建物（コンクリート造）の高層階に直ちに避難！

低平地浸水地域では、地震発生直後から移動を開始し、津波被害が及ばない地域まで避難することが理想的です。

避難者受け入れ地域　地図面色

津波浸水地域外の人は避難者について受け入れを準備！

避難支援地域では、浸水が想定される地域からの避難者を受け入れ、避難生活を支える等の支援が期待されます。避難所、地域の住宅・建物に避難者の受け入れ準備をしてください。

地図面色　**避難対策区域**

『沿岸・沿川地域』『河川遡上地域』『低平地浸水地域』の津波浸水地域以外に「新潟市に想定される3連動地震」による津波浸水の区域です。
より発生確率は低くなっていますが、確実な避難を行うため要避難区域としました。